

2015福島報告会



2015年11月6日 再エネ合同ビル
認定NPO法人ふくしま再生の会理事
菅野宗夫

四季折々ー自然豊かな美しい村ー飯舘村



春



夏



秋



冬

日本で最も美しい村

- 人口<1万人
- 地域資源が2つ以上(景観・文化など)
- 連合が評価する地域資源を活かす活動があること
(美しい景観に配慮したまちづくり、住民による工夫した地域活動、地域特有の工芸品や生活様式を頑なに守っている)



the most beautiful
villages
in japan

2010年に飯舘村も加盟



写真: 日本で最も美しい村ホームページ

4年7か月過ぎた飯舘村の今は

居宅除染から農地除染へ急ピッチ

数値目標のない除染に不信も

村民6,200人に入れ替わって5,000人の除染作業員



田園風景が・・・

延々と続く「フレコンバッグ」の山
再生に欠かせない優良農地を占有(800haのうち300ha強)



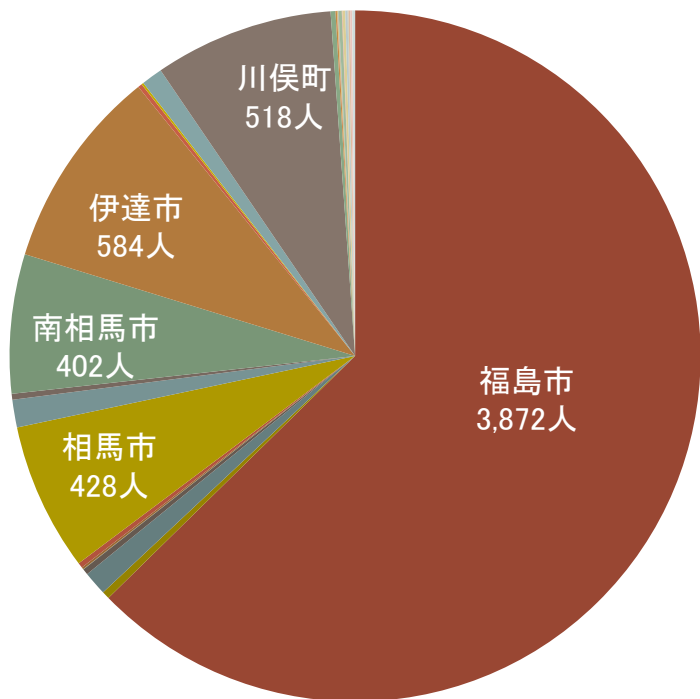
役場南側にあった山が・・・

現在(2015年10月14日)の現場風景



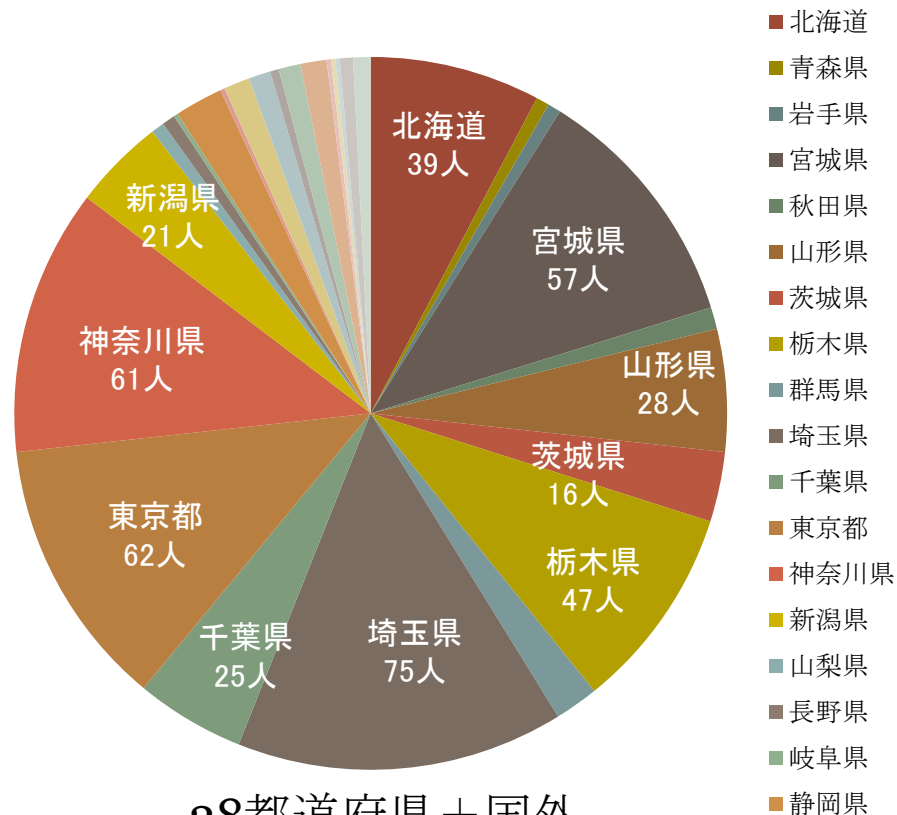
平成27年10月1日現在の避難状況

県内避難者



33市町村
6,180人 2,706世帯

県外避難者



28都道府県＋国外
505人 300世帯

<http://www.vill.iitate.fukushima.jp/saigai/?p=8445>

「最長で平成29年3月帰村」



■避難指示解除や帰還後の村民生活の考え方は

東京電力福島第一原発事故で全村避難が続く飯舘村は、避難指示解除（帰還困難区域を除く）の時期について「最長で2016（平成28）年3月、最長で17年3月の間」との見通しを示し、復興事業を進めている。村内では、国による除染をはじめ、道の駅を中心として復興拠点の整備などが進む。菅野典雄村長に、避難指示解除の時期の考え方や、帰還後の村民生活の展望などについて聞いた。

「17年3月までに避難区域の避難指示を解除する」との政府方針についてどう捉える。

「全村避難で一番悩んでいることは住民の心の分断。放射線量や賠償金についての考えは住民それぞれで違っており、全ての意見が間違っているのではない。そこにつらさがある。『均等にしよう』とする政府の方針は評価して良いのではないか」

―村民生活は。

「住民が抱えている不安をどう和らげるかだ。（住民の）生活を震災と原発事故前の生活に近づける制度

飯舘
2015.7.6 (3面)

飯舘村長

菅野 典雄氏

座標軸

自立につながる制度必要

「生活支援の制度とは、具体的に。『現在の営業損害（賠償）』という考えではなく、自立してもらうことを目的とした制度。例えば（震災前に）100万円の収入があるとすれば、70万円を2、3年間補充し、その後は40万円ぐらいに下げ、その次の補充は0円という制度を考えている。村民が抱えている不安を取り除き、ソフトランディング（軟着陸）するために必要だと感じている」

―村づくりに必要なことは。

「自立という考えは大切だ。（震災前の）『自立の村づくり』に戻るのには、孫の世代までかかると言った人がいる。うなずける話だと思っただ。単年度ではなく、できるだけ長期的で、段階的に（住民の）自立につながる制度が必要ではないか」

―年間被ばく線量については。

「1ミリシーベルトという線があるのと考え方はあらためるべき。『危ない』と『安心』の間に（境界）線が引かれている、ではなく、帯状になっているという考えだ。不安を取り除くために本気になって取り組まなければいけない。1ミリの呪縛を取るために、（放射能の危険性などについて学ぶ）リスクコミュニケーションの機会を設けてきた。しかし、村内の放射線量は、できるだけ下げる努力をしなければならぬと考えている」

かんの・のりお 1946（昭和21年）生まれ。68歳。帯広畜産大卒。県酪農青年研究連盟会長、県公民館連絡協議会副会長など歴任。村長は5期目。

福島民友2015年7月6日

主(村民)のいない本庁舎

福島市飯野町に移転中。
現在、本庁にもどっているのは一部の部署のみ。



2015年10月14日

いいたて までいな復興計画(第5版)

いいたて までいな復興計画
(第5版)

ーネットワーク型の新しいむらづくりー



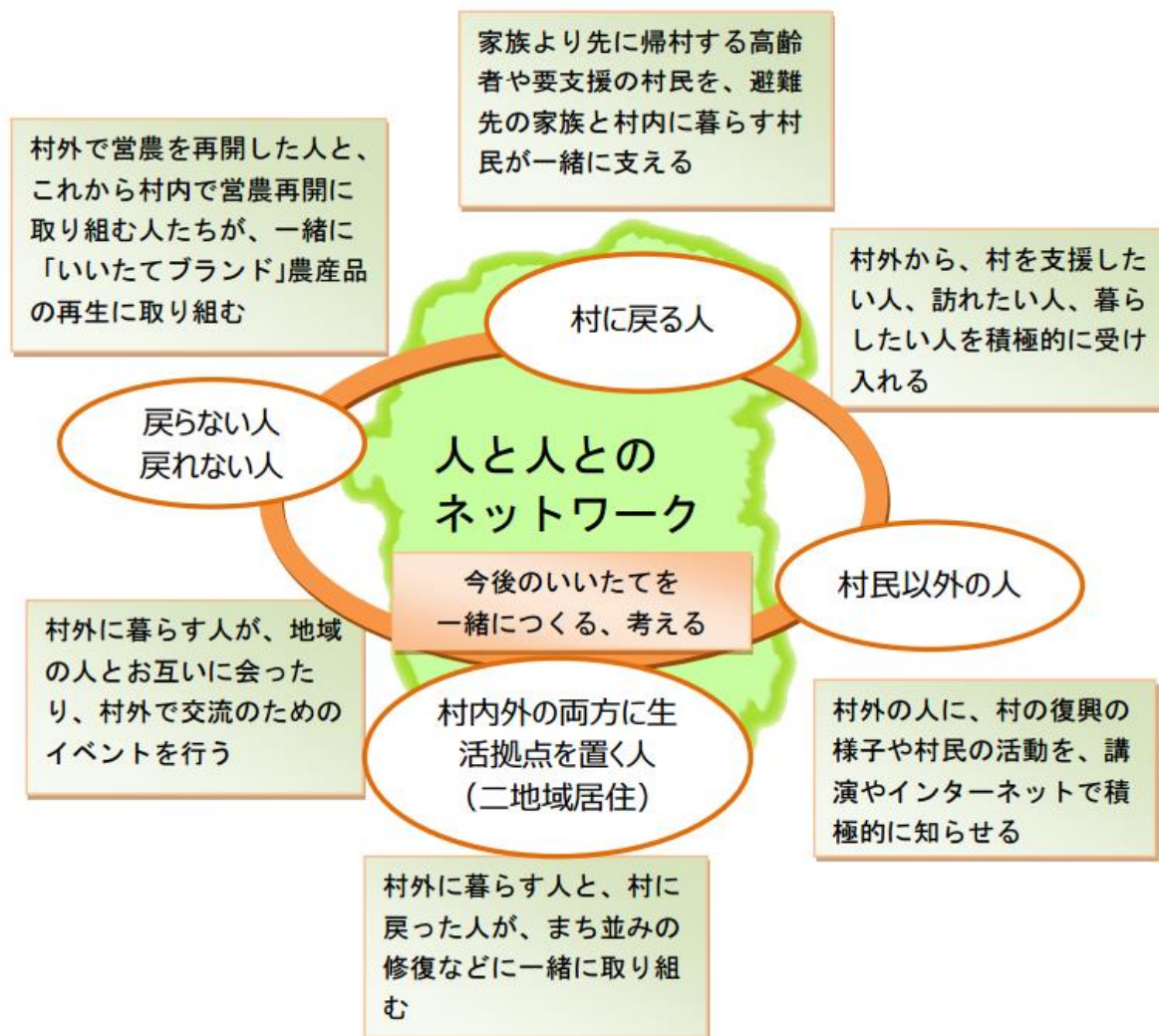
「平成 26 年度 草野・飯舘幼稚園はっぴょう会」

平成27年6月17日
飯 舘 村

<http://www.vill.iitate.fukushima.jp/saigai/?p=1406>

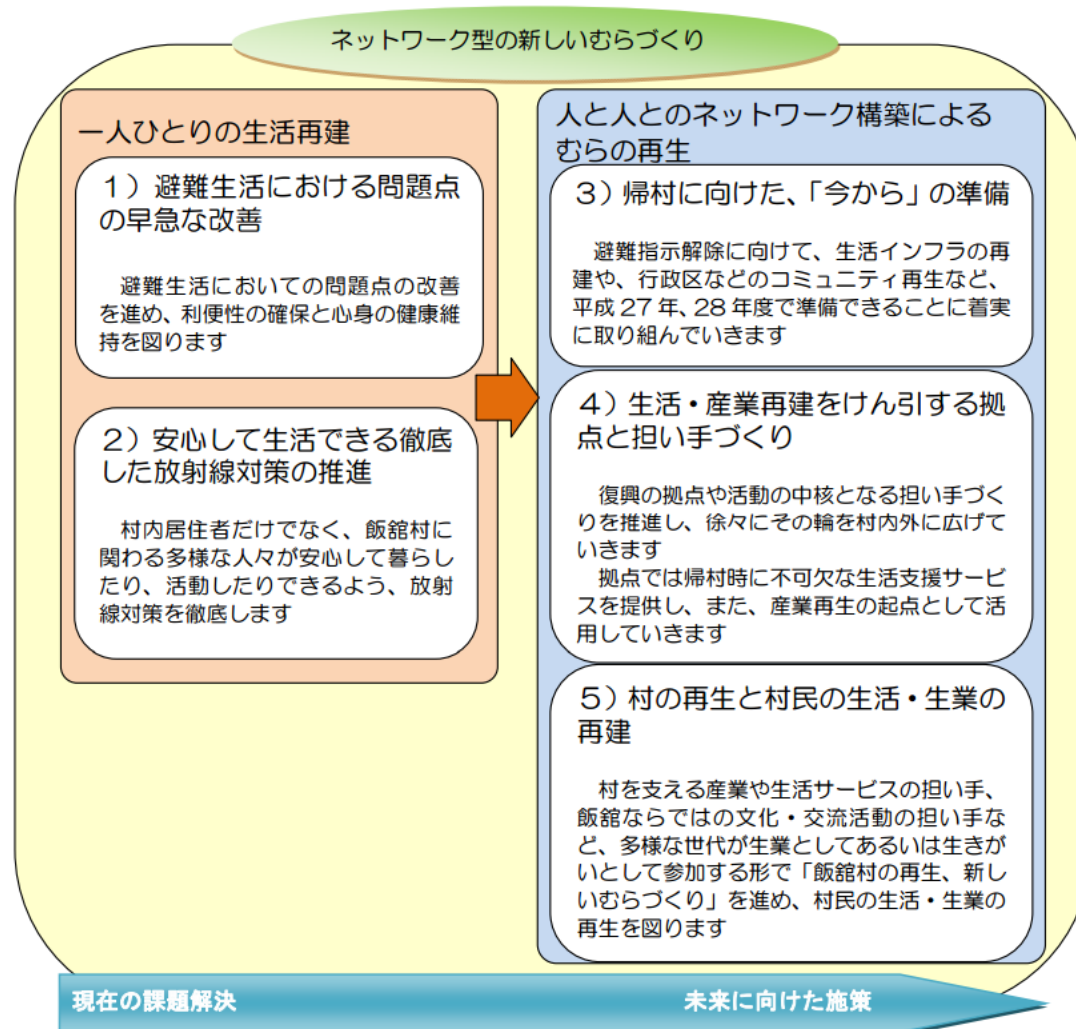
いいたて までのな復興計画(第5版)

ネットワーク型の新しいむらづくりのイメージ



いいいて までのな復興計画(第5版)

(第5版)における復興の考え方



いいいて までのな復興計画(第5版)

当面の取り組み施策・事業

本計画の取り組みの5本柱

本計画で取りまとめた、当面の取り組み施策・事業

ネットワーク型の新しい
むらづくり

1) 避難生活における問題点の
早急な改善

2) 安心して生活できる徹底した
放射線対策の推進

3) 帰村に向けた、「今から」の
準備

4) 生活・産業再建をけん引する
拠点と担い手づくり

5) 村の再生と村民の生活・生
業の再建

重点4分野での取り組み推進

- 教育
 - 暮らし
 - 健康・福祉・高齢者
 - 農地保全・営農再開
- ※村民部会での検討内容（第2部参照）を反映

復興の拠点・中核的担い手づくり

- 村内復興拠点エリアの整備
- 「までの村 陽はまた昇る基金」

村民による具体的な話し合いは、これから。

【原発事故後のチャレンジ】

「人類の叡智の結晶であるはずの科学技術によって、
なぜこんなことが起こされるのか」という思い

全てを奪われ失った今、
自らやれる事もあるはず
……生きがいを求め、チャレンジが始まる

「ふくしま再生の会」のきっかけ



2011年6月6日 田尾陽一氏のグループが福島県を視察。

- 福島第一原子力発電所の事故は、明確な人災
- 原子力発電技術が、事故を収束させる手段を持たないことのおかしさ
- 村民が帰村して安心して農業を営み生活できる施策を打つべき
- 福島だけではなく世界の問題
- 調査して得られたデータをすべて再生のために行政へ提供し提言を行う

初めての訪問
「現地へ行けば何かできることが・・・」

被災現地で
被災者と協働して
継続的に

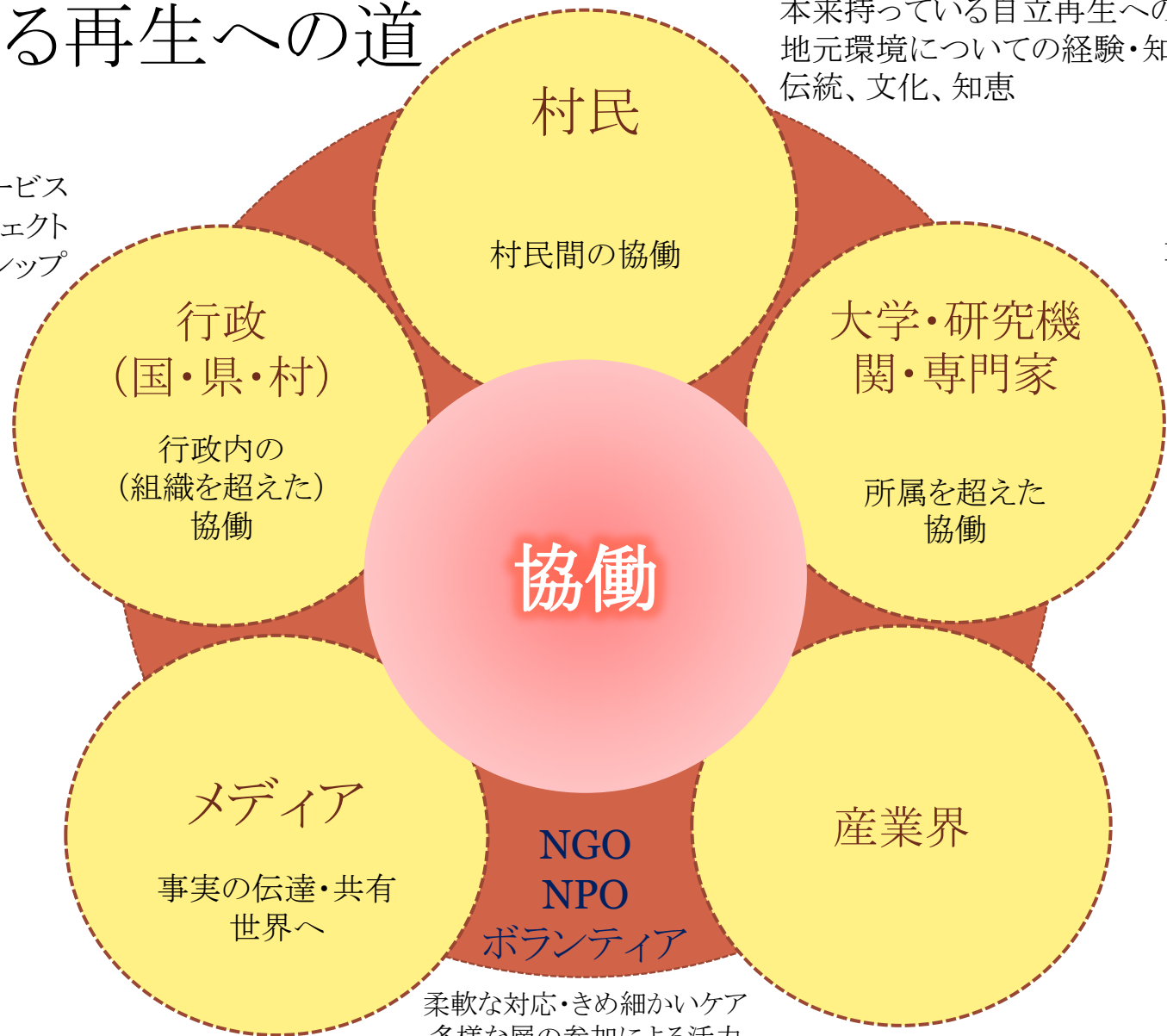
という点で一致。
自宅を開放して【ふくしま再生の会】がスタート。

協働による再生への道

本来持っている自立再生への力
地元環境についての経験・知識・技術
伝統、文化、知恵

基盤となる公共サービス
大規模なプロジェクト
ビジョンとリーダーシップ

専門知識
技術
人脈



柔軟な対応・きめ細かいケア
多様な層の参加による活力
専門知識・技術、職業経験、人脈、広い視野

再生への取り組み

養液点滴栽培によるレタスの収穫。
集約型のハウス栽培から、土壌を使用しない栽培の取り組み。



「宗夫ハウス」のレタス栽培



「永徳ハウス」のトマト栽培

営農再開の先駆けに

松塚地区 山田猛史さん

避難先で営みを続け、地域の再生へ

動き始めた水田放牧
畜産農家 山田 猛史さん(66) = 福島県飯舘村

営農再開の先駆けに
3・11大震災

福島第一原発事故で全村避難が続く福島県飯舘村の関根松塚地区で、除染後の水田を放牧地として活用する構想が動き出した。農業山田猛史さん(66)が自らの水田で来年、牧草栽培試験を行おうと準備中だ。

除染後の水田に立つ山田さん。福島県飯舘村関根松塚地区

山田猛史さん(66)は、福島県飯舘村の関根松塚地区で、除染後の水田を放牧地として活用する構想が動き出した。農業山田猛史さん(66)が自らの水田で来年、牧草栽培試験を行おうと準備中だ。

山田さんは30年、水田3枚を連ねて試験地としていた。環境は地方回復工事も行っが、放射性物質の吸収抑制に効く土壌改良材

シユタイイ...完成させた相対性理論から

や肥料の投入が主で、それだけでは農地再生にならない。市場で高く評価されてきた飯舘の牛。「それは農家が堆肥に富んだ土をつくり、牧草を育てたから。だが、全村避難の村に牛はもう頭もない」。山田さんは原発事故後もなりわいを諦めず、避難先の同県中島村で牧舎を借りての繁殖を再開した。1年前、村に近い福島市飯野町に移って家と牧舎を建て、26頭を飼う。試験のために牧舎から堆肥を運び、土を再生させたい」と言う。

行政区も水田放牧構想を帰後の土地利用の柱と位置づけ、畜産やハウス園芸など、住民たちの農業再開のけん引役を期待する。山田さんの三男豊さん(33)は京都市で食肉業の修業をし、プロを目指す。来春、家族で共にという。山田さんは「親子で将来、関根松塚を和牛の里にもり立てるのが夢。あと10年頑張らねば」(編集委員・寺島英弥)

「福島県飯舘村の関根松塚地区で、除染後の水田を放牧地として活用する構想が動き出した。農業山田猛史さん(66)が自らの水田で来年、牧草栽培試験を行おうと準備中だ。」

河北新報2015年10月11日

夢大らかにー飯舘村民歌

夢大らかに

(作詞 小林金次郎 作曲 石河 清)



山 美わしく 水 清らかな
その名も飯舘 わがふるさとよ
みどりの林に 小鳥は歌い
うらら春陽に さわらび萌える
あゝ われら 今こそ手と手 固くつなぎて
村を興さん 村を興さん

土 よく肥えて 人 情ある
その名も飯舘 わがふるさとよ
実りの稲田に 陽は照りはえて
続く阿武隈 山幸歌う
あゝ われら 夢大らかに とともに励みて
村を富まん 村を富まん



撮影...2014年11月3日12時01分阿武隈川に架かる国道115号文知摺橋から